

2023



論壇

Contribution to
JAHA



電動化時代における 自動車OEMの存在意義とは

日産自動車株式会社
専務執行役員

平井 俊弘

自動車業界は今、100年に一度の大変革期と言われ、業界を取り巻く環境は大きく、そして目まぐるしく変わってきています。カーボンニュートラルに有効な手段として、電気自動車(EV)と再生可能エネルギーの組み合わせが極めて有効であることが認識され始め、国策規模で電動化の動きが一挙に加速されたこと、新型コロナウイルスにより人々の生活スタイルがニューノーマルになったこと、またZ世代と呼ばれるように若い世代の価値観が変わってきていることなど、ここ数年でもさらに大きく変化してきていると実感しております。自動車OEM(Original Equipment Manufacturer)にとって、これまで以上に迅速かつ柔軟な対応が求められる非常に難しい局面を迎えています。これまでの内燃機関から電動化されることに際して、自動車に使われる部品は勿論のこと、それを開発し評価する設備や人財、生産設備に至るまで色々なものを大きく変えていくことが求められます。

この大きな変化は、勿論日産にとって新たなビジネスチャンスとなるわけですが、それは新たに参入機会を狙おうとしている、例えばスタートアップにとっても同様にチャンスとなっています。内燃機関は、その機構の複雑さと細分化された技術の専門性

の深さから、非常に大規模な実験・評価設備を必要とし、また信頼性保証やもの作りの観点から、鑄造・鍛造設備等の大規模投資も不可欠であり、これらが大きな参入障壁となっていました。

既存アセットを持ちつつ、電動化への移行に時間を要する既存OEMと異なり、過去のアセットに囚われないスタートアップにとって、電動車ビジネスに参入することは、スピードという点で優位になってきます。内燃機関の時代に自動車OEMだけが考えてきたモビリティの姿は、参入障壁の撤廃と共に様々な業界が多角的に思考し始め、遥か異次元なレベルにまで、その可能性が広がってきています。我々既存のOEMはこれまで以上に広い視野でモビリティを考え直すべき次のステージが到来していることと認識しています。

日産はEVとe-POWERによる二本柱の電動化戦略を掲げ、2050年カーボンニュートラル実現を宣言しております。お客様にとっての魅力ある選択肢は勿論失わないよう、EVの良さは徹底的に磨き抜き、充電や航続距離などのEVに対するネガティブなイメージを払拭する技術、例えばバッテリーエネルギー密度の向上やパワートレインの構造合理化などを

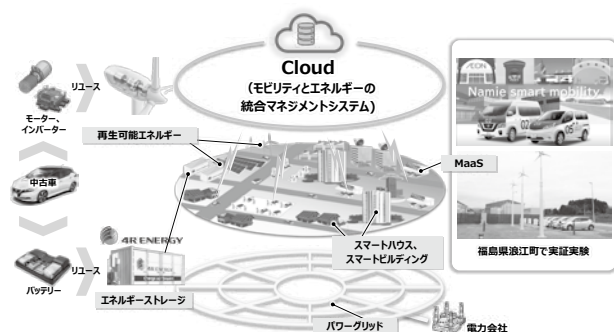


2021年に日産が発表したカーボンニュートラルへの取り組み

投入することにより、クルマ単位での進化を着実に進めております。

加えて、電動化が真にカーボンニュートラルに貢献するために、再生可能エネルギーの活用や、資源の再利用も同時に考え、ライフサイクルでお客様にさらなる価値を提供してまいります。例えば、グローバルで世界初の量産電気自動車である日産LEAFは、クルマを蓄電池としても使え、ご家庭の節電にも貢献可能で、災害時の非常用電源としても活躍実績があります。神奈川県横浜市では自動運転車両を使った新しい交通サービス、福島県浪江町では暮らしと統合したエネルギーマネジメントコミュニティの実証実験を行い、いずれもその実用性・効果を確認しております。

このように我々日産の、従来の内燃機関のクルマ作りから電動化にシフトした足跡を見るだけでも、これまでの自動車業界で扱ってきた領域からは、遥かにその裾野が広がっていることが理解いただけると思います。これはパワートレインの置き換えとして電動化を進めていく過程で、それらがもたらす新たな価値を模索してきた結果だと考えれば自然な流れだとも言えます。しかし、これだけに留まらないのが現況です。冒頭述べましたように、ここ数年で



暮らしとモビリティを統合したスマートコミュニティ構想



お客様の価値基準変化とともに変わっていくクルマ作り

人々の価値感が変わってきたことを契機に、新しい世代が持つモビリティに対する期待値も変わってきています。SDV (Software Defined Vehicle) と言われるような、使用過程の中でお客様のニーズに応じてクルマが進化していくという、新たな価値を創るための基盤として、自動車はそのカタチは変わらずとも存在意義が変わろうとしています。お客様のニーズを調査して予測して、それを具現化してお客様に提供するという、『作って販売する』だけでは、お客様のニーズの変化とスピードに対応しきれず、お客様へクルマを提供したのちに共にさらなるニーズを探り昇華し続ける、そういった『Software Definedの時代』に、日産は果敢に挑戦していきます。

人が移動し続ける限り、自動車は30年先も必要不可欠なものとしてあり続けることでしょう。自動車OEMは近々の変化に埋もれないよう、カーボンニュートラルに向けて電動車両の普及を着実に進めつつ、その先の将来で、お客様と社会に提供するものの素地を固めるべく、10年先と30年先を同時に考え続けながら、商品を提供していくことが必然となっていきます。これは、自動車業界が初めて遭遇する状況だと思います。30年先の将来で、カーボンニュートラルを確実に具現化するスマートコミュニティや、お客様の变化するニーズを満たすSDVを、確実に社会実装していくことが社会貢献につながっていきます。その未来を約束するべく、この10年間の間に、具現化するための技術・製品・システム・設備・人財等の基盤を着実に創り上げていくことが自動車OEMの存在意義であり、100年に一度の大変革期に対する自動車OEMの使命ではないかと考えます。

今後も日産自動車に是非ご期待いただければと思います。